

ボジョレー速報 2019年

ボジョレー・ヌーヴォーの収穫がついに始まった！

歴史的な猛暑も落ち着き、現在は過ごしやすい穏やかな天候が続いている。また心配された水不足も7月末と8月初めのまとまった降雨により解消されたようだ。他の地域が軒並み収量の大幅減に遭う中、ボジョレーは南を除いて、全体的に平均以上の収量が取れているようだ！ブドウのクオリティも素晴らしく、出来上がりに大いに期待がかかる！

カリーム、ジャン、フレッド&ケヴィンの収穫状況をレポートします♪

◇ カリーム・ヴィオネ

ヌーヴォーの収穫は9月7日に開始した。8月19日にリヨンからヴィルフランシュ=シュル=メールにかけて大規模な雹が降り、ボジョレー南部は壊滅的な被害に遭ったが、ヌーヴォー用に今年新しく手に入れた Saint-Étienne-des-Oullières (サン=テティエンヌ=デ=ズリエール) の畑は奇跡的に難を逃れた！

雹の雨雲があと3kmずれていたら畑が壊滅だったことを考えると本当にラッキーだったとしか言いようがない！

予定通りランシエのブドウとサン=テティエンヌ=デ=ズリエールのブドウを今回はヌーヴォーに使用している。割合的には6:4でサン=テティエンヌのブドウの方が多い。サン=テティエンヌのブドウはランシエのブドウよりも酸がありライトでヌーヴォー向きだ！マセラシオン期間は8日間。今年は発酵に勢いがあり、9月20日の時点でアルコール発酵がほぼ終了したが、マロラクティック発酵がまだ始まっていない。いつもだとリンゴ酸が1L中3g~3.5g程度に収まるのだが、今年は分析の結果5.5gありマロラクティック発酵が長引きそうな予感がする。アルコール度数は12%程度。味わいた的には、当初2010年のような骨格のあるワインをイメージしていたが、8月初めの雨で果汁が十分稼げたことにより、最終的に2013年、2014年のような果実味がエレガントでみずみずしく酸の効いたチャミングなワインに仕上がろうだ！



サン=テティエンヌの収穫直前のブドウ



発酵状況をチェックするノエミ

◇ ジャン・フォワヤール

ヌーヴォー収穫は予定通り9月10日に開始した。収穫中雨は一切降らず、ブドウはほとんど選果の必要がないくらいきれいな状態を保っていた。さらに、8月下旬にまとまった雨が降ってくれたおかげで、ブドウにはたっぷりと果汁が含んでいて、収量も45hl/haと満足の行く結果だった。醸造は、日中の気温が真夏のように暑く、マセラシオン期間中果房から微かに酢酸エチルの香りが感じられたので、今回初めてデレスタージュを試してみた。果房の下のジュースをいったん全て抜いて、抜いたジュースを4℃にまで冷やし、再び果房の上からかけ戻し、ジュースと果房の温度を下げることを試みた。また、酢酸エチルが再発しないようジュースをタンクに戻す前にパレット型の中蓋を果房の上に乗せ、果房が常にジュースの中に浸っている状態をつくった。発酵は今のと

ころ順調。デレスタージュで抽出を十分に行っているので、マセラシオンは10日程度で終わらせるつもりだ。発酵中のジュースを毎日試飲しているが、今年は果実味がとてもジューシーできれいな酸もあり、2014年や2016年のようなエレガントなタイプのワインに仕上がることを予想している！



デレスタージュを行うアレックス



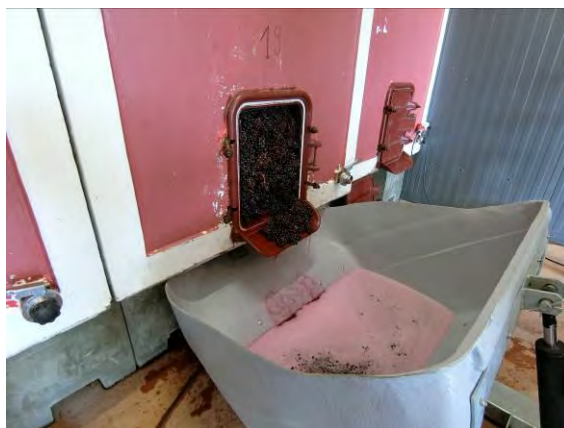
果房の上にパレット型の中蓋が敷かれている

☆ フレデリック・コサル&ケヴィン・デコンブ

ヌーヴォーの収穫は9月12日、13日に行った。今年はブドウの熟しがまちまちで、特にマルシャンの畑のブドウは成熟の早いブドウと遅いブドウが混在していた。今年は、まず初日に熟しの早いレーニエに隣接するボジョレー・ヴィラージュのブドウを収穫し、翌日マルシャンのブドウを収穫した。マルシャンのブドウは明らかに熟したブドウだけを収穫し、未熟なブドウは後日に残した。レーニエのボジョレー・ヴィラージュとマルシャンのブドウの割合は7:3くらい。いつものようにマセラシオン中は毎日タンクからジュースを抜いて、ブドウがジュースに浸らない二酸化炭素の充満だけによる完全マセラシオン・カルボニックを行っている。今のところ酢酸エチルの香りもなく発酵も順調だ。デキュヴァージュは9月19日に行っている。分析値を見る限りアルコール度数は12%~12.5%の間に収まりそうだ。2019年はレーニエのブドウのチャーミングな果実味に、マルシャンのシャープな酸とミネラルが加わった、ピュアでみずみずしくグビグビいけるワインに仕上げるつもりだ！



デキュヴァージュ直前の様子



デキュヴァージュの様子

2019年は、当初2003年や2010年のようなワインなるとの前評判が飛び交っていたが、結局カリーム、ジャン、ケヴィン&フレッド共にヌーヴォーらしいエレガントで果実味がみずみずしいワインに仕上がりそうだ！2019年最初の「美味しい♪」まであと少し。解禁日をどうぞお楽しみに～！

(2019年9月19日訪問レポートより)

ボジョレー速報 2019年

さあ、いよいよボジョレー・ヌーヴォーの収穫が直前に迫った！

歴史的な猛暑も落ち着き、現在は過ごしやすい穏やかな天候が続いている。また心配された水不足も7月末と8月初めのまとまった降雨により解消されたようだ。昨年に比べ収量予測は低いものの、クオリティに関しては昨年以上の「グレート・ヴィンテージ」に期待がもてそうだ！

カリーム、ジャン、フレッド&ケヴィンのブドウ畑の現状コンディションをレポートします♪

◇ カリーム・ヴィオネ

ヌーヴォーの収穫は当初9月3日前後を考えていたが、思っていたほどヴェレゾンが進まず結局9月7日まで収穫を引き延ばした。ちょうど天気予報では9月1日の週は全て晴マークで気温も上昇するとの予報があり、さらに8月終わりに降ったまとまった雨がブドウの最後の成熟を加速してくれるはずなので、7日が収穫のタイミングとしてはベストだろう。今年は春の遅霜や夏の猛暑の影響によりブドウの熟しがまちまちなため、収穫時には健全なブドウと一緒に一部ロゼ色の未熟なブドウも混じるかと思うが、最近では気候変動による温暖化の影響なのか、多くのヴィニヨロンがむしろ酸を補うロゼ色の未熟なブドウを重宝する傾向にある。いずれにせよ今年はボジョレーの当たり年であることは間違いない！夏焼けした一部のブドウ以外は状態が完ぺきで果汁も十分にあり、さらに酸もしっかり確保できている。バランスの優れていた2010年を彷彿させるようなワインになるような予感がする。



今年初仕込みのサンティエンヌ・ズリエールの畑



色付きがまばらなブドウ樹

◇ ジャン・フォワヤール

ヌーヴォーの収穫日は当初の予定通り9月9日、10日で考えている。今年は収穫直前まで水不足な傾向にあったが、幸い8月18日と25日に計80mmのまとまった雨が降ってくれたおかげでブドウは一気に息を吹き返した。小ぶりだったブドウの粒も平均並みに回復。その後の天気予報では収穫の終わる9月いっぱいまで快晴が続くとの予報なので、予報通りに行けば紛れもなく素晴らしいミレジムとなるだろう！さらに個人的には、ブドウの熟し度合いに注目していて、今年のようにブドウの熟しがまばらで果汁も多く含んでいる年は2000年、2001年、2008年、2014年に同じような傾向があり、いずれもフィネスあるエレガントなワインに仕上がっている特徴がある。そこに2010年のようなボリュームとバランスが加わることで、さらに上を行くワインが出来ることを今からイメージしている！



均一に熟したぶどう樹



9月いっぱい快晴の予報！

◇ フレデリック・コサール&ケヴィン・デコンブ

ヌーヴォーの収穫は9月16日、17日で考えている。今年は6月の初めから全く雨が降らず水不足が心配されたが、8月3日、10日、18日と計60mmの雨が降り水不足の問題は完全に解消された。また、最後に降った18日の強いわか雨のおかげで、日焼けして乾いたブドウが全て落ち、今は果汁をたっぷりと含んだきれいなブドウしか残っていない！ブドウの熟しは、現在のところ春の遅霜と夏の猛暑の影響でまちまちだが、これからさらに快晴が続けば徐々に均衡が取れてくると思う。2019年ヴィンテージは、巷では2003年を超える歴史的なミレジムと騒がれているが、濃縮感の強いワインではなく、むしろ酸がチャーミングなボジョレーらしい軽快なワインに仕上げるつもりだ！



色付きがまばらなブドウ樹



粒の成熟も最終段階！

カリーム、ジャン、ケヴィン&フレッド共に今年のワインの方向性が固まってきたようだ！

次回はいよいよ収穫&醸造のレポートをお届けいたします！

(2019年9月4日訪問レポートより)

ボジョレー速報 2019年

ボジョレー・ヌーヴォーの収穫まであと1ヶ月を切った！

歴史的な猛暑も落ち着き、現在は過ごしやすい穏やかな天候が続いている。また心配された水不足も7月末と8月初めのまとまった降雨により解消されたようだ。昨年に比べ収量予測は低いものの、クオリティに関しては昨年以上の「グレート・ヴィンテージ」に期待がもてそうだ！

カリーム、ジャン、フレッド&ケヴィンのブドウ畑の現状コンディションをレポートします♪

◇ カリーム・ヴィオネ

昨年よりも収量は少ないがグレート・ヴィンテージが期待できるかもしれない！6月の終わりと7月の終わりに気温が40度を超える猛暑に見舞われ、サン＝テティエンヌ＝デ＝ズリエールの西日の当たるブドウの垣根がブドウ焼けに遭ったが、被害はほんの一部だった。7月27日にボジョレーの南一帯に雹が降ったが、幸い雹の帯はサン＝テティエンヌ＝デ＝ズリエールの畑の脇をかするように通り抜け、被害はほとんどなかった。また、雹と一緒に短時間に降った30mmの局地的な豪雨のおかげで、6月下旬から続いていた水不足がきれいに解消され、現在ブドウは病気一つなく急ピッチで成長を遂げている。

一方ランシエのブドウは、遅霜の影響で付いている房は少ないが、それでも十分水分が足りていることもあって、どうにか平均収量を確保できそうだ。収穫日は当初予定していた通り9月3日前後を考えている。



ランシエの畑は平均的な収量予測



枝を紐で束ねられたゴブレ式のガメイ

◇ ジャン・フォワヤール

昨年に続き当たり年となりそうだ！ヴィンテージ的には夏の気候が安定した2010年と良く似ている。6月終わりと7月終わりに40℃を超える猛暑があり、畑も日照りにより水不足気味であったが、その後すぐにまとまった雨が降っているため、ブドウ畑に何ら影響はない。むしろこの2回の猛暑のおかげで、4月の遅霜によるブドウの成長の遅れを取り戻してくれている。

当初は日中気温40℃を超えた日は夜も熱帯夜となり、この終日熱が冷めない日が続けば、収量減はおろか品質的にも酸のない重たいワインが出来上がると心配していたが、現在は気温も穏やかで日中夜の寒暖の差もあり、天気予報によるとこの穏やかな天候は8月いっぱいまで続くとのことだ。このまま何も無く無事収穫までたどり着けたとしたら、2019年は紛れもなく歴史的なミレジムとなるだろう！収穫は昨年の9月15日の予想よりも5日早い9月10日前後を予定している。

☆ フレデリック・コサール&ケヴィン・デコンブ

6月の終わりと7月の終わりに日陰の気温が40℃近くまで上がる記録的な猛暑に見舞われたが、マルシャン村の畑は標高があるおかげで直射日光の当たる場所でも40℃は超えなかった。この猛暑の期間は夜の気温も下がらなかったが、結果的にはこの熱帯夜がブドウの成長促進となった。

現在ブドウは病気も一切なく健全な状態を保っている。6月の初めから全く雨が降らず心配された水不足の問題も、8月初めにしっかりと雨が降ってくれたおかげで解消された。今年の収穫日は前回の予想と変わらず9月15日前後で考えている。このまま何も問題なく収穫までたどり着けたら、ニュースで言うような世紀のミレジムになるかもしれない！



マルシャン村の収穫は9月15日前後の予測



日光を取り込むために例年通り摘葉をしている

ジェットコースターのような目まぐるしい天候も落ち着き、7月後半から8月は今年のブドウにとってはまさに絶好の気象条件といえるだろう。そして「2003年を超える世紀のミレジム」がにわかに現実味を帯びてきた！次回はいよいよ収穫直前のレポートをお届けいたします！

(2019年7月15日訪問(写真) & 8月8日電話・メールレポートより)

ボジョレー・ヌーヴォー速報 2019年

今年もボジョレー・ヌーヴォーの季節がやってくる！

2018年は早期にブドウが熟したヌーヴォーにとっての当たり年。夏は猛暑と日照りが続いたが、結果的には品質にも収量にも恵まれたミラクルな年だった。

2019年のボジョレーは春の遅霜など涼しい気候から始まり、夏に入ると反対に記録的な猛暑が続いている。まるでジェットコースターのような気温のうねりの中、果たして今年はどのようなミレジムになるのだろうか!?

◇ カリーム・ヴィオネ

近年ヌーヴォーの需要が増えたこともあり、今年初めにボジョレー南の村 Saint-Étienne-des-Oullières (サン＝テティエンヌ＝デ＝ズリエール) に樹齢平均 40 年のブドウ畑 1ha を新たに手に入れた。今年はランシエ、ランティニエ以外にこのサン＝テティエンヌ＝デ＝ズリエールのブドウがヌーヴォーに加わる予定だ。

今年の開花は、昨年よりも約 1 週間遅くランシエが 5 月 31 日、ランティニエが 6 月 1 日に始まり 4 日間ほどで終わった。(サン＝テティエンヌ＝デ＝ズリエールは 5 月 26 日) 今年はランシエの畑が、標高が低く空気が停滞しやすいこともあり、5 月初めに一部霜の被害に遭った。その後すぐは気温が上がらず、ブドウの成長は前年よりも 2 週間遅れていた。6 月 7 日には瞬間風速 100m/s を超える強風が吹き荒れ、ランシエ、ランティニエの畑は一部新梢が折れる被害に遭ったが、サン＝テティエンヌ＝デ＝ズリエールの畑は誘引していたこともあって被害はほとんどなかった。春にほとんど雨が降らなかった影響で、畑は全体的に水不足だったが、6 月 13 日、14 日、15 日と計 27 mm のまとまった雨が降り、その後連日のように猛暑が続いたことで、ブドウの成長スピードに一気に勢いが増した。病気は今のところなし。収穫日は 9 月 3 日前後を予定しているが、現在も気温は 40℃ 越えの記録的な暑さが続いていて、このまま暑い夏が続くと、2003 年のようなキャラクターのワインが出来上がるかもしれない。



病気無く、成長を続けている



ランシエの畑

◇ ジャン・フォワヤール

今年の開花は 6 月 6 日に始まった。早熟だった昨年よりも 10 日ほど遅い開花だ。ブドウの成長サイクルは、5 月 6 日に遅霜が降りたため 10 日から 2 週間ほど遅れていたが、6 月後半から続く猛暑によって今はその遅れは十分リカバーされている。6 月 7 日にハリケーン並みの強い北風が断続的に吹き荒れたが、幸い枝が勢いよく伸びる前だったので被害は最小限に抑えられた。現在 40℃ 越えの記録的な猛暑が毎日続いている。6 月 13 日から 3 日間計 40 mm 前後のまとまった雨が降ったおかげで、今のところ水不足の問題はなく、ブドウも例年並みの収量 45hl/ha が十分とれるだけの房が生っているが、このままこの異常とも言える猛暑が続けば深刻な水不足に陥る可能性もあり、まだまだ予断を許さない状況だ。ちなみに、今年の収穫は 9 月 15 日前後を考えている。

◇ フレデリック・コサール&ケヴィン・デコンブ

今年のブドウ開花は、標高が最も高いマルシャン村の畑で6月15日頃始まり1週間ほどで終わった。被害はほとんどなかったが、5月初めに襲った遅霜の影響やその後の気温の涼しさもあって、開花は昨年よりも3週間遅かった。また冬と春はほとんど雨が降らず水不足が心配されたが、幸いにも6月の初めに30mmくらいのしっかりとまとまった雨が降り、さらに、6月の下旬から気温が上がり連日のように快晴が続いていることにより、ブドウは一気に成長の遅れを取り戻しつつある。ブドウの病気も、今のところ天気が乾燥していることもありほとんど見られない。ただ、このところ毎日のように気温が40度を超える記録的な猛暑に見舞われ、これがさらに続くと雹や日照り、ブドウ焼けのリスクが出てきそうなのがちょっと心配だ。今年の収穫日は今のところ昨年と同じ9月15日前後で考えている。



標高が高く斜度のあるマルシャン村の畑



表土には花崗岩が散在しており白っぽい

地中は沖積土と砂混じり土壌

2019年はこのまま行くと「2003年のようなボジョレー・ヌーヴォーの世紀のミレジムになる」と巷では期待されている！その一方で、6月に40℃を超える暑さを記録したことでTVでは連日のように地球温暖化による異常気象の話題を取り上げている。果たして、この猛暑のリスクはいつまで続くのか！？次のレポートもお楽しみに！

(2019年6月18日訪問&6月30日メールレポートより)